

## 7.5 関数の合成

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(\quad) = \quad,$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = \quad ,$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$



**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

$$f(3) = 7 \text{ かつ } g(7) = 4 \text{ なので } g(f(3)) = g( ) = .$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

$$f(3) = 7 \text{ かつ } g(7) = 4 \text{ なので } g(f(3)) = g(7) = 4.$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

$$f(3) = 7 \text{ かつ } g(7) = 4 \text{ なので } g(f(3)) = g(7) = 4.$$

**例** 定義域が集合  $\{1,2,3\}$  である関数  $f$  を次のように定める：

$$f(1) = 5, \quad f(2) = 9, \quad f(3) = 7.$$

定義域が集合  $\{5,6,7,8,9\}$  である関数  $g$  を次のように定める：

$$g(5) = 3, \quad g(6) = 1, \quad g(7) = 4, \quad g(8) = 2, \quad g(9) = 0.$$

このとき、次のように、 $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値が唯一つ定まる：

$$f(1) = 5 \text{ かつ } g(5) = 3 \text{ なので } g(f(1)) = g(5) = 3,$$

$$f(2) = 9 \text{ かつ } g(9) = 0 \text{ なので } g(f(2)) = g(9) = 0,$$

$$f(3) = 7 \text{ かつ } g(7) = 4 \text{ なので } g(f(3)) = g(7) = 4.$$

$f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  の値を定める関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。この  $f$  と  $g$  との合成関数の定義域は  $f$  の定義域  $\{1,2,3\}$  である。

終

一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；

一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；この関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；この関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

**定義** 関数  $f$  の値域が関数  $g$  の定義域に含まれるとき、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に  $g(f(x))$  を定める関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。



一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；この関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

**定義** 関数  $f$  の値域が関数  $g$  の定義域に含まれるとき、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に  $g(f(x))$  を定める関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

変数  $x$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(x)$  の値がある。なので、 $f(x)$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(f(x))$  の値がある。

一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；この関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

**定義** 関数  $f$  の値域が関数  $g$  の定義域に含まれるとき、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に  $g(f(x))$  を定める関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

変数  $x$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(x)$  の値がある。なので、 $f(x)$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(f(x))$  の値がある。つまり、 $g(f(x))$  の値があるためには  $f$  の値  $f(x)$  が  $g$  の定義域に属さなければならない。

一般的に、関数  $f$  の定義域の各要素  $x$  における  $f$  の値  $f(x)$  が関数  $g$  の定義域に属するとき、 $f(x)$  における  $g$  の値  $g(f(x))$  があるので、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に対して  $g(f(x))$  を定める対応は関数になる；この関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

**定義** 関数  $f$  の値域が関数  $g$  の定義域に含まれるとき、 $f$  の定義域の各要素  $x$  に  $g(f(x))$  を定める関数を  $f$  と  $g$  との合成関数という。

変数  $x$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(x)$  の値がある。なので、 $f(x)$  の値が  $g$  の定義域に属するときに限り  $g(f(x))$  の値がある。つまり、 $g(f(x))$  の値があるためには  $f$  の値  $f(x)$  が  $g$  の定義域に属さなければならない。故に、合成関数  $g(f(x))$  を考えるには、 $f$  の値の全体つまり  $f$  の値域が  $g$  の定義域に含まなければならない。

関数  $f(x)$  の値域が関数  $g(x)$  の定義域に含まれるとき,  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  は,  $f$  の定義域の各要素  $x$  における値  $g(f(x))$  を定める. よって合成関数  $g(f(x))$  の定義域は  $f(x)$  の定義域である.

関数  $f(x)$  の値域が関数  $g(x)$  の定義域に含まれるとき,  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  は,  $f$  の定義域の各要素  $x$  における値  $g(f(x))$  を定める. よって合成関数  $g(f(x))$  の定義域は  $f(x)$  の定義域である.

**定理** 関数  $f(x)$  の値域が関数  $g(x)$  の定義域に含まれるとき,  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  の定義域は  $f(x)$  の定義域である.

**問7.5.1** 定義域が集合  $\{1,3,7\}$  である関数  $f(x)$  を次のように定める：

$$f(1) = 2, \quad f(3) = 6, \quad f(7) = 8.$$

定義域が集合  $\{2,4,6,8\}$  である関数  $g(x)$  を次のように定める：

$$g(2) = 5, \quad g(4) = 1, \quad g(6) = 0, \quad g(8) = 9.$$

$f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  を求める。

$f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  の定義域は集合  $\{ \quad \}$  であり、

$$g(f(\quad)) = g(\quad) = \quad, \quad g(f(\quad)) = g(\quad) = \quad, \quad g(f(\quad)) = g(\quad) = \quad.$$

**問7.5.1** 定義域が集合  $\{1, 3, 7\}$  である関数  $f(x)$  を次のように定める：

$$f(1) = 2, \quad f(3) = 6, \quad f(7) = 8.$$

定義域が集合  $\{2, 4, 6, 8\}$  である関数  $g(x)$  を次のように定める：

$$g(2) = 5, \quad g(4) = 1, \quad g(6) = 0, \quad g(8) = 9.$$

$f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  を求める。

$f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  の定義域は集合  $\{1, 3, 7\}$  であり、

$$g(f(1)) = g(2) = 5, \quad g(f(3)) = g(6) = 0, \quad g(f(7)) = g(8) = 9. \quad \boxed{\text{終}}$$

**例** 定義域が区間  $[3, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 2x - 1$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = x^2 + 4$  と定める.



**例** 定義域が区間  $[3, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 2x - 1$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = x^2 + 4$  と定める.  $f(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、 $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる; よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  がある. この合成関数  $g(f(x))$  を求める.

**例** 定義域が区間  $[3, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 2x - 1$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = x^2 + 4$  と定める.  $f(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、 $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる; よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  がある. この合成関数  $g(f(x))$  を求める. また、 $g(x)$  の値域は、区間  $[4, \infty)$  なので、 $f(x)$  の定義域の区間  $[3, \infty)$  に含まれる; よって  $g(x)$  と  $f(x)$  との合成関数  $f(g(x))$  がある. この合成関数  $f(g(x))$  を求める.

**例** 定義域が区間  $[3, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 2x - 1$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = x^2 + 4$  と定める.  $f(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、 $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる; よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  がある. この合成関数  $g(f(x))$  を求める. また、 $g(x)$  の値域は、区間  $[4, \infty)$  なので、 $f(x)$  の定義域の区間  $[3, \infty)$  に含まれる; よって  $g(x)$  と  $f(x)$  との合成関数  $f(g(x))$  がある. この合成関数  $f(g(x))$  を求める.

合成関数  $g(f(x))$  の定義域は、関数  $f(x)$  の定義域なので、区間  $[3, \infty)$  である. この区間  $[3, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$g(f(x)) = g(2x - 1) = (2x - 1)^2 + 4 = 4x^2 - 4x + 1 + 4 = 4x^2 - 4x + 5 .$$

**例** 定義域が区間  $[3, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 2x - 1$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = x^2 + 4$  と定める.  $f(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、 $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる; よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  がある. この合成関数  $g(f(x))$  を求める. また、 $g(x)$  の値域は、区間  $[4, \infty)$  なので、 $f(x)$  の定義域の区間  $[3, \infty)$  に含まれる; よって  $g(x)$  と  $f(x)$  との合成関数  $f(g(x))$  がある. この合成関数  $f(g(x))$  を求める.

合成関数  $g(f(x))$  の定義域は、関数  $f(x)$  の定義域なので、区間  $[3, \infty)$  である. この区間  $[3, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$g(f(x)) = g(2x - 1) = (2x - 1)^2 + 4 = 4x^2 - 4x + 1 + 4 = 4x^2 - 4x + 5 .$$

合成関数  $f(g(x))$  の定義域は、関数  $g(x)$  の定義域なので、区間  $[0, \infty)$  である. この区間  $[0, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$f(g(x)) = f(x^2 + 4) = 2(x^2 + 4) - 1 = 2x^2 + 8 - 1 = 2x^2 + 7 .$$

**終**

**問7.5.2** 定義域が区間  $[2, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 3x - 2$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = \frac{1}{3}x^2 + 5$  と定める. 関数  $f(x)$  の値域は、区間  $[4, \infty)$  なので、関数  $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる. よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  ができる. この合成関数  $g(f(x))$  を求めよ. 関数  $g(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、関数  $f(x)$  の定義域の区間  $[4, \infty)$  に含まれる. よって  $g(x)$  と  $f(x)$  との合成関数  $f(g(x))$  ができる. この合成関数  $f(g(x))$  を求めよ. 結果は降冪の順に整理せよ.

合成関数  $g(f(x))$  の定義域は、関数  $g(x)$  の定義域なので、区間  $[0, \infty)$  である. この区間  $[0, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$g(f(x)) = \frac{1}{3}(3x - 2)^2 + 5 = x^2 - \frac{4}{3}x + \frac{17}{3}.$$

合成関数  $f(g(x))$  の定義域は、関数  $f(x)$  の定義域なので、区間  $[2, \infty)$  である. この区間  $[2, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$f(g(x)) = 3\left(\frac{1}{3}x^2 + 5\right) - 2 = x^2 + 13.$$

**問7.5.2** 定義域が区間  $[2, \infty)$  である関数  $f(x)$  を  $f(x) = 3x - 2$  と定め、定義域が区間  $[0, \infty)$  である関数  $g(x)$  を  $g(x) = \frac{1}{3}x^2 + 5$  と定める. 関数  $f(x)$  の値域は、区間  $[4, \infty)$  なので、関数  $g(x)$  の定義域の区間  $[0, \infty)$  に含まれる. よって  $f(x)$  と  $g(x)$  との合成関数  $g(f(x))$  ができる. この合成関数  $g(f(x))$  を求めよ. 関数  $g(x)$  の値域は、区間  $[5, \infty)$  なので、関数  $f(x)$  の定義域の区間  $[4, \infty)$  に含まれる. よって  $g(x)$  と  $f(x)$  との合成関数  $f(g(x))$  ができる. この合成関数  $f(g(x))$  を求めよ. 結果は降冪の順に整理せよ.

合成関数  $g(f(x))$  の定義域は、関数  $f(x)$  の定義域なので、区間  $[2, \infty)$  である. この区間  $[2, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$g(f(x)) = g(3x - 2) = \frac{1}{3}(3x - 2)^2 + 5 = 3x^2 - 4x + \frac{19}{3} .$$

合成関数  $f(g(x))$  の定義域は、関数  $g(x)$  の定義域なので、区間  $[0, \infty)$  である. この区間  $[0, \infty)$  の各実数  $x$  について、

$$f(g(x)) = f\left(\frac{1}{3}x^2 + 5\right) = 3\left(\frac{1}{3}x^2 + 5\right) - 2 = x^2 + 13 .$$

終